

連続企画 人文学と批評の使命Ⅱ

ワークショップ 同人誌メディアの 批評的可能性

日時
2017年 11月 19日 (日)
午後 1時30分 - 4時30分

場所
神戸大学文学部
A棟 1階学生ホール

神戸市灘区六甲台町1-1神戸大学六甲台第2キャンパス

発言 ● 佐久間義貴 (『アクリヲ』同人) ● 立尾真士 (『G-W-G』同人) ● 綿野恵太 (『子午線』同人) ● 中村徳仁 (『夜航』同人) 司会 ● 梶尾文武 (国文学)

お問合せ先 krweiwei@tiger.kobe-u.ac.jp (梶尾研究室)

主催 神戸大学文学部若手研究者支援プログラム

出入場自由・事前予約不要

佐久間義貴

「批評同人誌はオルタナティブたりうるか」

さくま・よしたか：1988年、福島県生まれ。『アクリヲ』編集長。主な著作に「反響・パースペクティブ・深さ—振動するジャームツシュの風景」(『アクリヲ6』)。

立尾真士

「解釈とセキュリティ」

たちお・まこと：1978年、熊本県生まれ。『G-W-G』同人。主な著作に「独裁・脱出・革命—グローバル資本主義下の村上龍文学」(『G-W-G』1)、『「死」の文学、「死者」の書法—椎名麟三・大岡昇平の「戦後」』(翰林書房)。

綿野恵太

「必敗的抒情に抗して」

わたの・けいた：1988年、大阪府生まれ。『子午線』同人。主な著作に「新自由主義者の労働論」(『atプラス』17)、「谷川雁の原子力」(『現代詩手帖』2014年8-10月)、「原子力の神—吉本隆明の宮沢賢治」(『メタポゾン』11)。

中村徳仁

「水を差す批評、そしてすべての「祭り」は過ぎ去ったという感覚」

なかむら・のりひと：1995年、京都市出身。批評誌『夜航』編集長。現在、神戸大学国際文化学部4回生。1年間、ベルリン自由大学に留学。主な著作に「決断・虚構・美」(『夜航』1号)、「事物と対話—想起と公共性の再定義」(『夜航』2号)。